

令和4年度 国語 授業改善推進プラン

大田区学習効果測定 結果の分析

- 4年生：校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を下回った。活用においては目標値と区・全国平均を下回る。説明文及び物語の読み取りにおける正答率は各平均を上回るが、領域別の書くことにおける正答率は各平均を下回る。
- 5年生：校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を上回った。基礎において目標値・区平均・全国平均を上回る。内容別に見ると、漢字を書く・読む正答率、物語・説明文の読み取りの正答率は区平均をそれぞれ上回る。
- 6年生：校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を下回った。特に、話し合いをもとに活動報告を書き直すことにおける正答率は各平均を下回る。

【観点別正答率の分析】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
各学年で目標値を下回った。どの学年も前学年の既習漢字やローマ字の読みが身に付いている。	4・6年生は目標値を下回っている。各学年で、物語の内容や登場人物の気持ちについて叙述を基にして捉えられている。また、段落構成を整えて文章を書くことに課題が見られる。	4・6年生は、目標値を下回っている。特に、指定された長さで文を書くこと、自分の考えを明確にして書くことや意見を判断して書く問題の正答率が低い。

課題〈今回の調査結果から〉

- 文章構成の把握(主語、述語、修飾語)という、すべての領域の言語活動の根本になる力に課題が見られる。
- 中心となる語や文を見つけて要約することや目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることに課題が見られ、個人差が大きい。
- 段落構成を意識したり、指定された長さで文を書いたりすることに課題があり、記述式の問題において無解答の児童が多く(6年生2割以上)、主体的に取り組む態度を育てる工夫が必要である。